

テーマ：消費者物価（全国2月、東京都区部3月） 発表日：2009年3月27日（金）
 ～3月にマイナス転化へ。5月以降はマイナス幅が急拡大～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

(単位：%)

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	移動電話通信用料	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	移動電話通信用料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
07	1月	0.0	0.0	▲0.2	3.4	▲0.2	0.1	0.2	0.1	2.6	▲0.2
	2月	▲0.2	▲0.1	▲0.3	▲0.6	▲2.3	0.0	0.0	▲0.1	▲0.5	▲2.3
	3月	▲0.1	▲0.3	▲0.4	▲1.4	▲4.1	0.1	▲0.1	▲0.3	▲1.4	▲4.1
	4月	0.0	▲0.1	▲0.2	▲0.6	▲4.1	0.1	0.0	▲0.2	0.0	▲4.1
	5月	0.0	▲0.1	▲0.3	▲0.4	▲4.1	0.0	0.0	▲0.2	▲0.1	▲4.1
	6月	▲0.2	▲0.1	▲0.4	1.4	▲4.1	▲0.2	▲0.1	▲0.3	2.5	▲4.1
	7月	0.0	▲0.1	▲0.5	2.1	▲4.1	▲0.1	▲0.1	▲0.3	3.1	▲4.1
	8月	▲0.2	▲0.1	▲0.2	0.4	▲4.1	▲0.3	0.0	▲0.2	0.7	▲4.1
	9月	▲0.2	▲0.1	▲0.3	▲0.3	▲4.1	▲0.1	▲0.1	▲0.3	▲0.4	▲4.1
	10月	0.3	0.1	▲0.3	2.3	▲4.1	0.1	0.0	▲0.3	2.8	▲4.1
	11月	0.6	0.4	▲0.1	9.3	▲3.9	0.3	0.1	▲0.1	11.0	▲3.9
	12月	0.7	0.8	▲0.1	15.1	▲3.9	0.4	0.3	▲0.1	16.8	▲3.9
08	1月	0.7	0.8	▲0.1	15.6	▲4.0	0.3	0.4	0.0	17.1	▲4.0
	2月	1.0	1.0	▲0.1	17.5	▲2.0	0.4	0.4	▲0.1	18.8	▲2.0
	3月	1.2	1.2	0.1	18.2	▲0.1	0.6	0.6	0.1	19.7	▲0.1
	4月	0.8	0.9	▲0.1	6.9	▲0.1	0.6	0.7	0.0	4.6	▲0.1
	5月	1.3	1.5	▲0.1	17.6	▲0.1	0.9	0.9	0.1	18.3	▲0.1
	6月	2.0	1.9	0.1	23.9	0.7	1.5	1.3	0.3	24.6	0.7
	7月	2.3	2.4	0.2	28.8	0.7	1.6	1.6	0.3	28.9	0.7
	8月	2.1	2.4	0.0	28.0	0.7	1.3	1.5	0.2	26.8	0.7
	9月	2.1	2.3	0.2	23.7	0.7	1.4	1.7	0.5	22.6	0.7
	10月	1.7	1.9	0.2	15.0	0.7	1.2	1.5	0.4	11.6	0.7
	11月	1.0	1.0	0.0	▲3.8	0.8	1.1	1.1	0.2	▲9.3	0.8
	12月	0.4	0.2	0.0	▲17.4	0.8	0.8	0.8	0.2	▲22.1	0.8
09	1月	0.0	0.0	▲0.2	▲23.4	0.8	0.5	0.5	▲0.3	▲28.3	0.8
	2月	▲0.1	0.0	▲0.1	▲21.5	0.8	0.5	0.6	▲0.1	▲24.6	0.8
	3月	-	-	-	-	-	0.2	0.4	▲0.4	▲25.0	0.8

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

○ 前年比ゼロ%も、デフレ圧力は強まる

09年2月の全国消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比0.0%と前月から変化はなかった。また、09年3月の東京都区部は同+0.4%と前月の同+0.6%から伸びが縮小した。ともに事前の市場予想と一致しており、意外感のない結果である。

全国は2ヵ月連続で前年比ゼロ%となったが、マイナス転化は時間の問題である。東京都区部の動向から判断すると、3月の全国CPIコアは前年比▲0.2%と、07年9月以来の下落が予想される。

その後もマイナス圏での推移が続くと予想されるが、特に5月以降の下落ペースはかなり急速なものになる可能性が高い。前年（08年）の同時期において上昇ペースが極めて急だったことから、前年比で見れば石油製品価格はマイナス寄与が急拡大、食料品価格もプラス寄与が急速に縮小することになる。過去の原油・穀物価格の下落を反映する形で、5月に電気・ガス代の大幅値下げ、4月に政府の輸入小麦売渡価格の引き下げが行われること、またそれを受けての各種食料品価格の引き下げなども影響するだろう。こうした原油・食料品価格の下落や前年の裏といった要因により、今後の消費者物価には相当な下押し圧力

がかかるだろう。

原油や食料品価格の下落については、輸入コストの低下を通じて日本経済にとってプラスになる面もあり、一概に悪いとばかりは言えない。一方で問題が大きいのは、景気の急激な悪化を受けて、国内の需給バランスの崩れに由来する物価下落圧力が強まっていることである。エネルギーと食料品を除いた消費者物価（米国型コア）は景気動向と密接な関係があるが、この米国型コアは、2月の全国では前年比▲0.1%（1月同▲0.2%）と2ヶ月連続で低下、3月の東京都区部でも同▲0.4%と前月（▲0.1%）からマイナス幅が拡大している。物価は景気動向に遅れて動くことを考えると、今後の米国型コアはマイナス幅が大きく拡大していくことが予想される。既に多くの品目において、売れ行き不振を背景とした値下げの実施などが報道され始めている。こうした動きは今後一段と強まっていく可能性が高い。

2008年前半に生じた物価上昇は、エネルギーと食料品のみによって嵩上げされており、本当の意味でのインフレではなかった。一方2009年の物価は、資源価格急落によって表面上の物価下落が進んでいくことに加えて、景気悪化による米国型コアの下落も進行していく。事態はかなり深刻である。

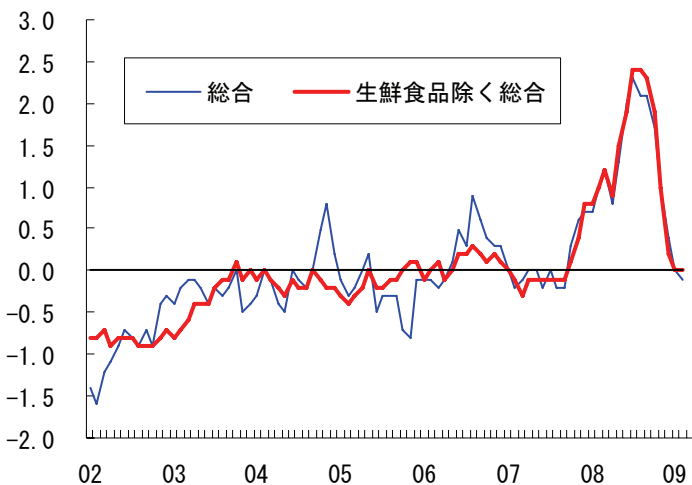
ここで仮に、原油価格（WTI）が1バレル・55ドル、為替レートが1ドル98円で今後推移したとすると、CPIのマイナス幅が最も大きくなる09年夏場には、前年比で▲2%台半ばのマイナスになることが予想される。原油価格や為替レート、食料品価格の動向次第で幅はでるが、いずれにしてもCPIのマイナス幅が今後急拡大していくことは間違いない。デフレ色がかなり強まるだろう。

○ 夏には▲2%以上のマイナス幅に

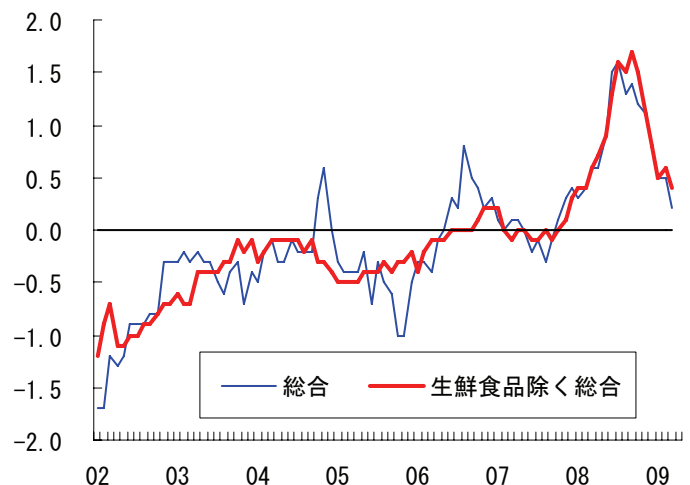
2月の全国消費者物価は前年比0.0%と、1月と同じ伸び率だった。ガソリン価格の急落が一服したことで石油製品のマイナス寄与が縮小したことや食料品価格の伸びが鈍化したことが若干目立つ程度で、1月から大きな変化はなかった。

3月の東京都区部は前年比+0.4%と、2月の同+0.6%から伸びが小幅縮小した。売れ行き不振によって衣料品が値下がりしたことが目立っている。3月の東京都区部CPIで最も注目されるのが、エネルギーと食料品除く総合が前年比▲0.4%（2月同▲0.1%）と3ヶ月連続で低下し、マイナス幅も拡大したことである。今後も、08年後半以降の景気の急速な悪化を受けてマイナス幅が大きく拡大していくことが予想される。また、前月から伸び率が縮小（下落幅拡大）している品目が増えてきており、物価下落が広がりを持ち始めていることも示唆されている。

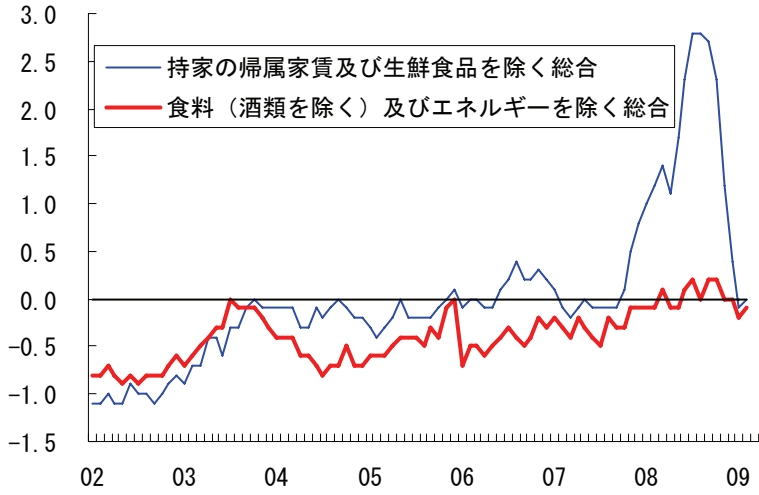
全国消費者物価指数（前年比、%）



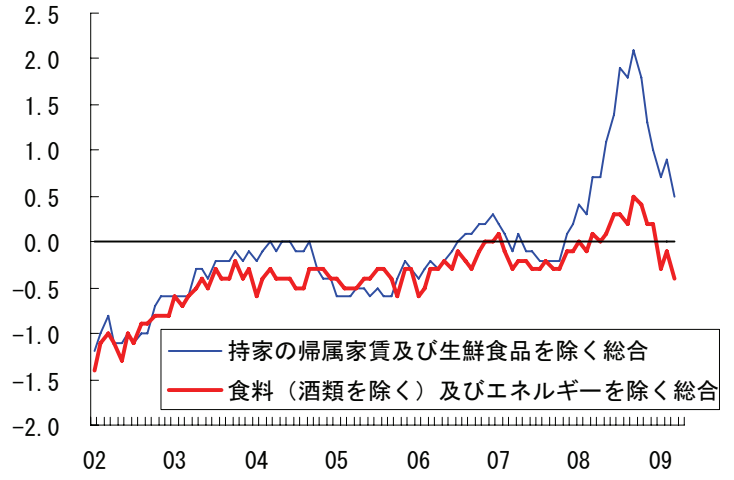
東京都区部消費者物価指数（前年比、%）



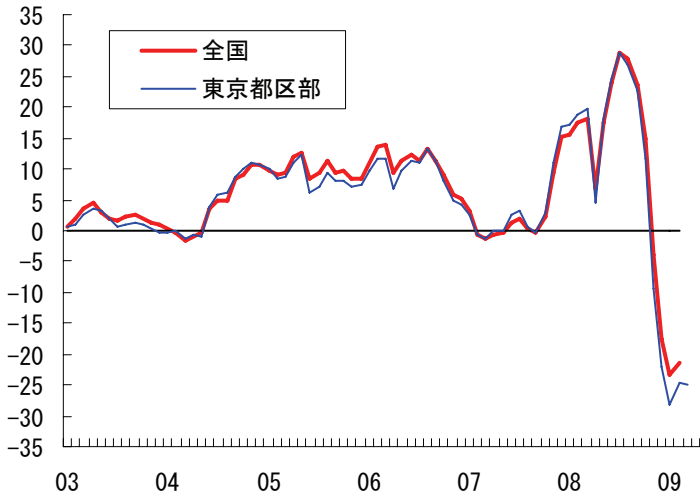
全国消費者物価指数（前年比、%）



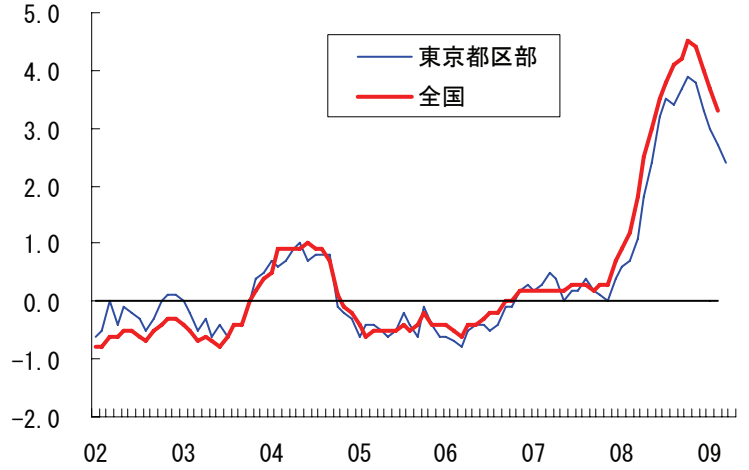
東京都区部消費者物価指数（前年比、%）



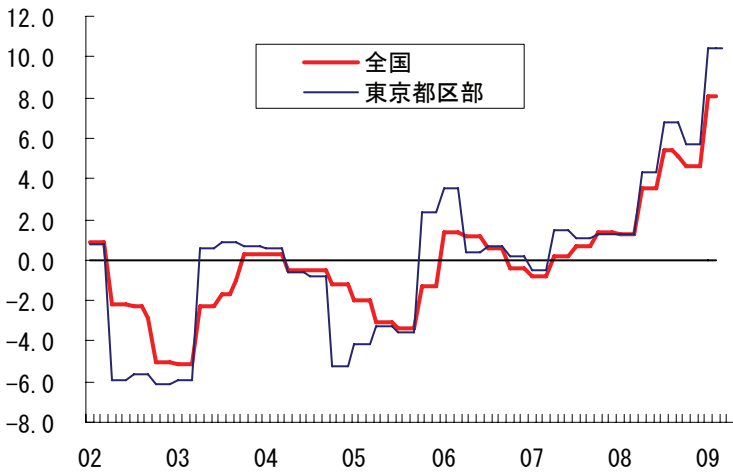
石油製品（前年比、%）



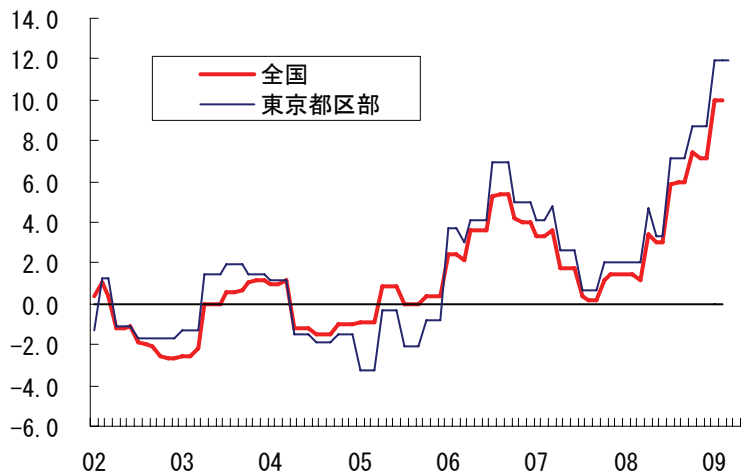
生鮮食品を除く食料（前年比、%）



電気代（前年比、%）

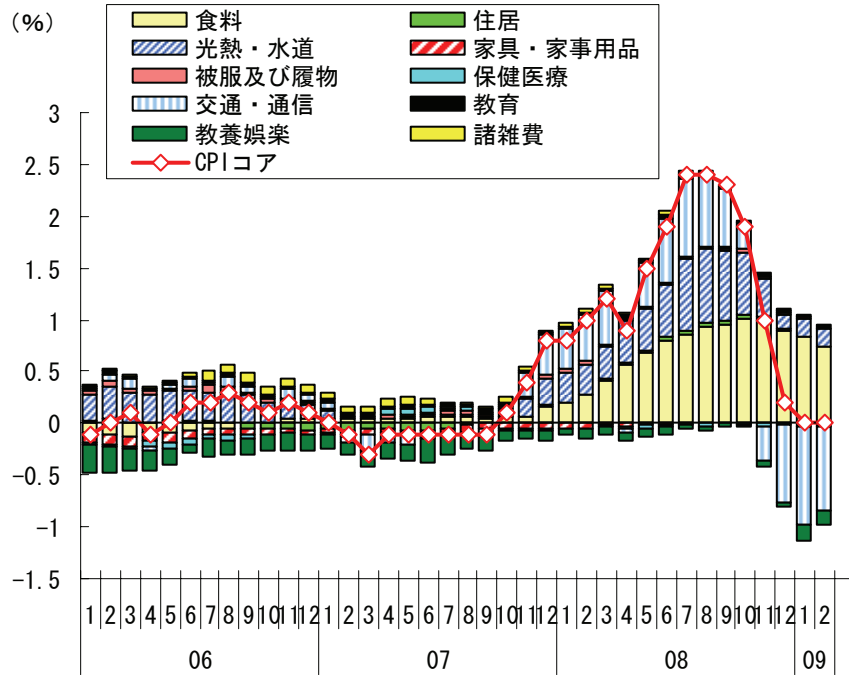


都市ガス代（前年比、%）

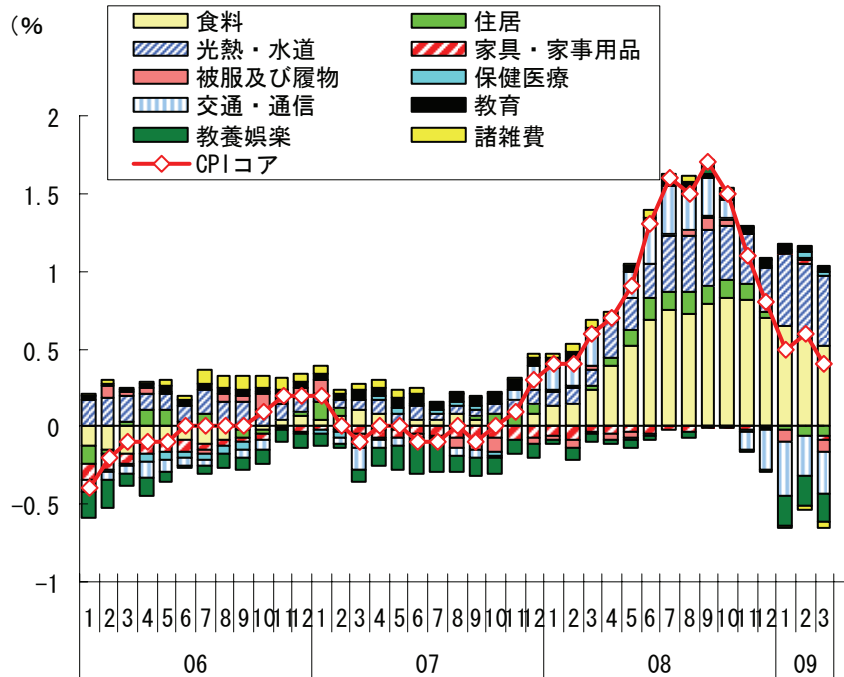


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

全国・消費者物価コア前年比



東京都区部・消費者物価コア前年比



グラフの出所はすべて総務省統計局「消費者物価指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。